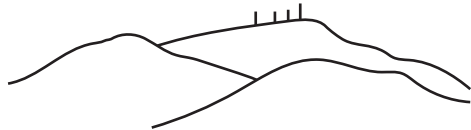


Youth Manna

2018/8/6-8/12



マルコ 1:35

さて、イエスは朝早く、まだ暗いうちに起きて寂しいところに出かけて行き、そこで祈っておられた。

2018/8/6(月)

マルコ 10:13-22

神の国は子どものように、疑わず素直に受け入れる者たちのもの。私たちの心は、子どもたちの心に比べてどうだろうか？

永遠のいのちを受け継ぐとは、神の国で生きること。それは私たちが持っているものすべてを売り払ってでも手に入れるべき価値のあるもの。みんなは永遠ということにどれほど目を留め、大事なことと理解しているだろうか？この箇所の青年は神の国よりもお金の方が大切だった。今イエス様の前に手放せないものはあるだろうか？過ぎ去るこの世に心を奪われる生き方ではなく、永遠を見て生きよう！そして今日を感謝して神様と共に歩もう！

2018/8/7(火)

マルコ 10:23-31

きみの心の中で神様よりも大切になっているものは何だろうか？ゲーム？友達？恋愛？お金？

イエス様はお金を持つことが悪いと言ったのではなく、お金持ちの青年の心が神の国ではなくて、お金とこの地上に価値を置いて頼っていることが問題だと言ったよ。そして、もし全てを捨てて神様についていたのなら全てのものが神様によって帰ってきて、神の国に入れると言ったよ。神様を第一にすることによって私達は神の国に入れるよ！心の中で神様よりも大切になっているものがあれば、悔い改めよう！

人には出来ないことが神様には出来る！自分の力で変えられなくても、祈ってイエス様の力によって変えてもらおう！！

2018/8/8(水)

マルコ 10:32-45

イエスと弟子たちは、エルサレムに向かっていった。その道中、イエスは三度目の受難予告をされた。そのような中で、ヤコブとヨハネがイエスに頼み事をした。イエスは、二人の頼みを聞いてくださったが、受け入れはせず、二人の願いを叶えるのはイエスの役割ではないことを伝えた。そして、イエスは弟子たちに、皆の先に立ちたいと願うなら、人々のしもべになるように、仕える者になりなさいと、語られた。イエスは、先に立ちたいという思いを否定してはおられない。そのような志を与えられたなら、皆のしもべになるようにと命じ、ご自身が来られた目的をはっきりと示された。

私たちは主に愛されていること、そして選ばれてここに置かれていることを信じます！仕える者になりたいです！イエス様の心がよくわかるように助けてください！

2018/8/9(木)

マルコ 10:46-52

あなたの信仰があなたを救いました。(52v)

目の見えないバルテマイはイエスさまに癒してもらおうと叫び続けた。周りの人々は黙らせようとしたが、彼はますます声を大きくして叫び求め、その声はイエスさまのもとに届き、イエスさまは身元に呼び寄せた。

盲目のバルテマイの願いが何かはおおよその検討がつくものであるし、イエスさまが分からない訳がない。それでもイエスさまはあえて願いを聞くことを望まれ、そして癒された。私たちは日々必要なことを祈っているだろうか？

バルテマイのように求め続けることが出来ているだろうか？

2018/8/10(金)

マルコ 11:1-11

キリストは2人の弟子に「主がお入り用なのです」と言うようにと具体的に指示をしました。

私達も様々なケースで必要な物や事を考え求めますが、それがもし神様の為であれば必ず与えて下さいます。つまり愛ゆえの求めはとても単純ですね！自分が何かを求める時の同期には何があるか考えてみよう！弟子達がかりた口バにキリストが乗り、エルサレムに歓迎されるのは預言されていた事でした。(ゼカリヤ 9:9) 全ては神様の計画の中で動いていました。キリストを歓迎したエルサレムのように喜んで賛美をしよう！今日はキリストが来られる事をイメージして感謝する祈りをしよう！キリストに従う事を決意して出て行こう！

2018/8/11(土)

マルコ 11:12-26

エルサレムに入城されたイエス様は、次の日にベタニヤからもう一度エルサレムに入った。そして、その時弟子たちが驚くほどの行動をとられる。一つはいちじくの木をのろわれ、実際にその木が枯れたこと。もう一つは宮の中で商売をしていた人々を追いついたことだったね。

祈りの家と呼ばれるはずの、神様を礼拝するはずの場所が人の欲のために使われていたことに怒りを表した。でも、実際にそこで人々は反省せずに、逆にイエス様を殺す相談をし始めてしまったんだ。

そのあとイエス様は弟子たちに22~25節の中で信仰について教えられた。私達も間違ったり、信仰の弱さがある。それでも、神様の教えに耳を傾けて変えられ続けていこう！

2018/8/12(日)

マルコ 11:27-33

祭司長、律法学者、長老らはイエス様が勝手にエルサレムの中で教えたり、福音を宣べ伝えたことが許せませんでした。そこからイエス様に対して「権威」について聞いてきました。イエス様がもし神様の権威において行ったと言えれば彼らは神様を冒瀆したと捉えて怒るでしょう。しかし、知恵のあるイエス様はバプテスマのヨハネを挙げて話しました。彼らは天から来たと言っても人から出たと言っても都合が悪かったことから「わかりません」と答えました。この答えは、彼らがわからないのではなく、群衆を恐れていたことから出ていました。私達も神様ではなく周囲の人々に目を取られ、恐れてしまうことはないでしょうか。神様だけを恐れましょう。